

子ども・青年の労働・職業選択に関する意識調査
—特に不安や悩みについて、T県T市小学生・中学生・高校生の場合—

御子柴 暁・丸山 剛史

宇都宮大学共同教育学部教育実践紀要 第8号 別刷

2021年8月31日

子ども・青年の労働・職業選択に関する意識調査[†]

—特に不安や悩みについて、T県T市小学生・中学生・高校生の場合—

御子柴 暁*・丸山 剛史**
宇都宮大学教育学部卒業生*
宇都宮大学共同教育学部**

本稿は、子ども・青年のキャリア形成のための基礎的検討として、T県T市の小学生・中学生・高等学校生を対象として、労働・職業選択に関する意識、特に不安や悩みについて、その内容的特徴を明らかにすることを目的とした。調査は無記名アンケートにより行った。検討の結果、小学生の段階から不安や悩みがあると回答する児童がおり、学校段階が上がるにつれてその割合が大きくなること、高校生では、就職先等が具体的、専門的になる一方、「自分が何になりたいか分からない」「自分に合う職業が分からない。決め方が分からない」等の回答も少なからず出てくること、等が明らかになった。

キーワード：小学校、中学校、高校生、労働、職業選択

1. 研究の目的及び方法

本稿は、子ども・青年のキャリア形成のための基礎的検討として、小学校・中学校・高等学校児童・生徒の労働・職業選択に関する意識、特に不安や悩みについて、その内容的特徴を明らかにすることを目的としている。

1998年以降、わが国では「キャリア教育」が推進され、児童・生徒の勤労観・職業観の育成が重視されてきた。しかし、こうした「キャリア教育」については、次のような指摘がある¹。

比喩的にいうならば、職業の世界にまもなく乗り出していくノン・エリートの高校生にとって、職業教育を受けることは、厳しい大海に泳ぎ出すう

えでの不可欠のプールでの水泳練習なのであり、職業教育を伴わないキャリア教育は、いわば「暁の上での」水泳練習であるといえるかもしれない。

すなわち職業教育を伴わない「キャリア教育」は「暁の上での水泳練習」であり、「厳しい大海」を泳いでいく力を与えないのではないかというのである（この指摘はあくまで高校生の場合である）²。

こうした批判を克服しつつ、子ども・青年の適切なキャリア形成のための教育のあり方を考えなければならないが、その際、重視されなければならないのは、子ども・青年の労働や職業選択に対する意識、特に不安や悩みであろう。教育実践では子ども・青年の内面に形成された矛盾に注目する必要がある、こうした矛盾を克服することにより子ども・青年はさらに成長・発達を遂げることができよう。

「キャリア教育」との関係で小学生・中学生・高校生の勤労観・職業観を調査した研究がないわけではないが³、子ども・青年の内面に形成される不安や悩みを取り上げた研究、しかも近年の調査は多くないように思われる⁴。

いずれにしても、本稿では、子ども・青年の労働・職業選択に関する意識、特に不安や悩みに注目し、最新の状況を確認しようとするものである。本稿では、事例研究的にT県T市の小学校第5・6学年児

[†] Satoshi MIKOSHIBA*, Tsuyoshi MARUYAMA** : Survey on labor and occupational choice awareness of elementary school students, junior high school students, and high school students

Keywords: elementary school students, junior high school students, high school students, labor, occupation choice

* Utsunomiya University Faculty of Education Graduate

** Cooperative Faculty of Education, Utsunomiya University

(連絡先: marusan@cc.utsunomiya-u.ac.jp)

童（104名）、中学校第2・3学年生徒（140名）、高等学校第1・2学年生徒（115名、いずれも普通教育を主とする学科）を対象に労働および職業選択に関する意識調査をアンケート（無記名）により行うこととした。特に不安や悩みを確認することを主な目的とした。調査は、2020年12月から2021年1月にかけて行われた。質問事項は次のとおり。

【1】あなたは将来、仕事をして働きたいと思いませんか。

（「そう思う」「ややそう思う」「どちらでもない」「あまりそう思わない」「そう思わない」から1つを選択）

【2】将来の夢、やりたい仕事、なりたい職業は何ですか。さしつかえなければ教えてください。

（自由記述）

【3】（1）将来の夢、やりたい仕事、なりたい職業（中・高校生には「職業に就いて働くこと、進路選択」も挿入）を考える上で、不安なこと、心配していること、こまっていること、相談したいことはありますか。

（「ある」「いまのところない」「ない」から1つを選択）

【3】（2）（「ある」場合）不安なこと、心配なこと、こまっていること、相談したいことはどのようなことですか。

（自由記述）

2. 小学生アンケートの結果

（1）仕事をして働きたいと思うか

「そう思う」と肯定的に回答した者（「そう思う」、「ややそう思う」）は100名（96.2%）であった。

肯定的な回答でなかった者（「どちらでもない」、「そう思わない」）も4名（3.8%）おり、働くことに対して積極的でない児童も見受けられた。

表1 将来仕事をして働きたいと思うか（小学生）

回答・選択肢	人数
そう思う	83
ややそう思う	17
どちらでもない	3
あまりそう思わない	0
そう思わない	1

（2）将来の夢、やりたい仕事、なりたい職業

「将来の夢、やりたい仕事、なりたい職業」に関して、アンケートに記述されたものは次のとおり。カッコ内の数字は人数である。

プロ野球選手（4）、野球関連、イラストレーター（3）、プログラマー（2）、ゲームクリエイター（2）、ゲームを作る会社に就きたい、ゲーム実況、eスポーツプレイヤー、ゲーム関係の仕事、医師（2）、薬剤師（3）、看護師（3）、放射線技師、医療関係の仕事（2）、水族館の飼育員（2）、動物に関する職業、動物園の飼育員、獣医師、科学者、生物学者（動物の言葉を翻訳できるものを作りたい）、サッカー選手、プロサッカー選手、水泳選手、美容師、トリマー、介護士、パティシエ、ケーキ屋、警察官、地図を作る仕事、幼稚園教員、図書館司書、サラリーマン、父の仕事の後継ぎ、気象予報士、ウェディングプランナー、インテリアコーディネーター、大工、料理の仕事、小説家、特殊メイク、大企業、高収入でホワイト企業。

表2 将来の夢、やりたい仕事、なりたい職業（小）

順位	仕事・職業	人数
1	プロ野球選手	4
2	イラストレーター 薬剤師 看護師	3
3	プログラマー ゲームクリエイター 医師 医療関係の仕事 水族館の飼育員	2

「プロ野球選手」が最も多く、これにイラストレーター、薬剤師、看護師がつづく。「プログラマー」や「ゲームクリエイター」といったゲーム関係も少なくない。趣味・嗜好の延長線上に就きたい職業・仕事を想定する傾向が強いように思われる。また、近年、T県内公立小学校の複数の教員から「将来、youtuberになりたい」という子どもが少なくない、と聞いたことがあったが、今回の回答にyoutuberはみられなかった。

（3）不安なこと、心配していること

「ある」の回答者数は20名（19.2%）。小学生でも

将来の夢や職業、進路選択に関して不安や心配をかかえている子どもが少なからず存在することが看取できる。

自由記述の記述内容を確認すると、「ゲーム製作の仕事につくにはどの勉強をしたらよいか教えてほしい」、「自分がなりたい職業は仕事の数や収入が少なそうで生活していけるか心配」など、就職に至る経路や職業の詳細に関するものが少なくないと思われるが、なかには保護者の就労状況を見て、悲観的に考えている児童もいる。

表3 不安なこと、心配していること等 (小学生)

回答・選択肢	人数
ある	20
今のところない／ない	84

[自由記述]

- ・自分が何になりたいのか分からない。
- ・親が仕事で疲れているのを見て、自分もそうになってしまう職業につかなければならないのか不安。先生は将来生きていくにはこうしないとイケないと言うが、ほぼ毎回自分にできないことばかりで将来生きていくにはどうすればいいか考えてしまう。自分が何になりたいのか分からない。
- ・面接を通るか分からない。新人としてこき使われるかもしれない。
- ・自分がこの職業に合っているか分からない。自分の趣味なども大切にしたい。周りの人が自分を応援したり、助けてくれない気がする。
- ・就職をした時にちゃんとやっていけるか不安。
- ・自分がなりたい職業は仕事の数や収入が少なそうで生活していけるか心配。(特殊メイク：引用者)
- ・やりたいことが沢山あって分からない。その仕事に就けなかったらどうしよう。
- ・勉強が分からない時が多くある。これから勉強ができるようになるか不安。
- ・ゲーム製作の仕事につくにはどの勉強をしたらいいか教えてほしい。

3. 中学生アンケートの結果

(1) 仕事をして働きたいと思うか

「そう思う」と肯定的に回答した者(「そう思う」、「ややそう思う」)は136名(97.1%)。肯定的な回答でなかった者(「どちらでもない」、「そう思わない」)

も4名(2.9%)存在した。

表4 将来仕事をして働きたいと思うか(中学生)

回答・選択肢	人数
そう思う	118
ややそう思う	18
どちらでもない	1
あまりそう思わない	0
そう思わない	3

(2) 将来の夢、やりたい仕事、なりたい職業

「将来の夢、やりたい仕事、なりたい職業」に関して、アンケートに記述されたものは次のとおり。

看護師(7)、憲法に関わる仕事、動物に関わる仕事、弁護士、警察官、自衛隊、法医学者、小児科の看護師、保育士(4)、医師、作業療法士、救急救命士、理学療法士、臨床検査技師、人の健康を管理する仕事(食に関わることなど)、小学校の先生、中学校の教師、図書室の先生、図書館司書、子供相談、児童養護施設、トリマー、獣医師、薬剤師、薬剤師・安定した仕事・接客業・趣味を仕事にしたい、芸能、俳優・声優、女優、モデル、アーティスト、トリマー、公務員、芸能に関わる仕事、ADなど舞台裏の仕事、仮面ライダー、大工、建築業、インテリアコーディネーター、英語を使う仕事、韓国のカフェのような店を開きたい、雑貨屋で働きたい、水族館の飼育員、イラストレーター(2)、デザイナー、アパレル販売員、動物関係の仕事、鉄道関係、整備士、車関連の仕事、機械を作ったりするエンジニア、ファナック(ロボットや電気機器の企業)、AIなど機械系の仕事、IT関係、プログラミング関係、メイクアップアーティスト、サービス業、ゲームクリエイター、作曲家、小説家、宇宙に関係する仕事、グランドスタッフ、塾講師、経理・会計士、事務系の仕事、市役所職員、地方公務員、専業主婦、社長、収入が安定する仕事、夢はまだないが高校卒業後は就職したい。

表5 将来の夢、やりたい仕事、なりたい職業(中)

順位	仕事・職業	人数
1	看護師	7
2	保育士	4
3	イラストレーター	2

看護師が最も多く、保育士も少なくない。医療福祉関係の仕事を希望する中学生が少なくない。小学生よりも専門的、具体的であるといえよう。

(3) 不安なこと、心配していること

「ある」と回答した者は47名(33.6%)存在した。

「やりたい仕事が見つからない」、「やってみたいことはいくつかあるが1つに決められない」、「やりたい事はあるけど、自分ができるか不安」など、「やりたい仕事」に関しても、問題は微妙にずれながらいくつか存在する。

そのほか、「どのような学校に入って〇〇〇を学ばばいいのか」と上級学校進学と就職の関係をあげている生徒もいれば、「趣味を選ぶか安定を選ぶか決めるのが難しい」のように、趣味と職業生活との狭間で悩んでいる生徒もいる。

表6 不安なこと、心配していること等(中学生)

回答・選択肢	人数
ある	47
今のところない/ない	93

[自由記述]

- ・勉強のやり方が分からなくてテストの点数が上がらない。
- ・勉強しているが結果が出ない。
- ・やりたい仕事が見つからない。
- ・やりたいことが分からない。やりたいことの1つに〇〇〇(スポーツ名:引用者)があるが、自分に合っているか分からない。〇〇〇が好きな理由は今現在のチームメンバーのおかげだと思うから、どうしていいのか分からない。
- ・何もしたくなさすぎる。
- ・やりたい事はあるけど、自分ができるか不安。
- ・やってみたいことはいくつかあるが1つに決められない。
- ・自分が何になりたいのか、そしてどういうことを頑張ればいいのか分からない。
- ・仕事に就いても、その仕事が自分に出来るのか不安。
- ・将来何の職に就きたいか分からない。どんな仕事があるのか知りたい。誰かのためになる仕事につきたい。
- ・成績があまり良くなく、集中力がないので将来が

不安。

- ・成績が悪すぎて学校に行けるのか不安。人間関係が不安。
- ・受験までに成績が上がらない。全力を出しても志望校に入るのが難しい場合どうすればいいのか。自分に合った勉強法が見つからない。自分だけ受験に落ちたらどうしよう。
- ・どのような学校に入って〇〇〇等を学ばばいいのか。
- ・理系に進まないといけませんが、理科数学がすごく苦手。親の職業を兄弟の内誰かが一人継がないといけな。
- ・自分にその職への適性が備わっている自信がない。少し時間が経てば「なりたい」という気持ちが消えるのが怖い。
- ・これらの職はあくまで自身の趣味であって、成功できない、続けていくことができない可能性があるため、趣味を選ぶか安定を選ぶか決めるのが難しい。

4. 高校生アンケートの結果

(1) 仕事をして働きたいと思うか

「そう思う」と肯定的に回答した者(「そう思う」、「ややそう思う」)は109名(94.8%)。肯定的な回答でなかった者(「どちらでもない」、「そう思わない」)も6名(5.2%)存在した。

表7 将来仕事をして働きたいと思うか(高校生)

回答・選択肢	人数
そう思う	98
ややそう思う	11
どちらでもない	2
あまりそう思わない	1
そう思わない	3

(2) 将来の夢、やりたい仕事、なりたい職業

「将来の夢、やりたい仕事、なりたい職業」に関して、アンケートに記述されたものは次のとおり。

新しいものを生み出す仕事、発明家、設計士、建築士(3)、建築関係、公務員(3)、公官庁の職員、行政職員、栃木県庁、国土理院、国土交通省、官僚、教師(8)、英語教師、中学校の教師、心理・教育系、宇宙探査や衛星を作る、環境に関わる仕事、自動車整備士、鉄道会社、スマホに関わること、プ

プログラマー (2)、ゲーム開発者、スポーツ医療に関する職業、医師 (3)、外科医、医療関係の仕事、薬剤師 (3)、経営者 (2)、弁護士、SDGsに関する仕事、サラリーマン、外交官、ビッグデータを扱う仕事、ITコンサルタント、AppleやGoogleなどのグローバルな企業、研究職、大学教授、研究員、物理学者、工学系

表8 将来の夢、やりたい仕事、なりたい職業 (高)

順位	仕事・職業	人数
1	教師	8
2	建築士 公務員 医師 薬剤師	3
3	プログラマー 経営者	2

「教師」が最も多く、これに「建築士」、「公務員」、「医師」、「薬剤師」などが続いている。「栃木県庁」、「AppleやGoogleなどのグローバルな企業」等のように就職先・勤務先がかなり具体的になっていることが特徴的である。

(3) 不安なこと、心配していること

「ある」と回答した者は51名 (44.6%) であった。約半数の生徒が不安や悩みを抱えている。

自由記述の内容は、「自分が何になりたいのか分からない」、「自分が何に向いているか分からない」と青年期特有の問題を記述している者もいれば、「大学に入る為に勉強していて、入った後のことを考えていない」等、受験体制下の生徒に起こりえる問題について記している生徒もいた。そのほか、「労働時間長そう」「ブラックな企業に就職してしまわないか心配」等、現代の労働問題について不安を感じている生徒もいた。

表9 不安なこと、心配していること等 (高校生)

回答・選択肢	人数
ある	51
今のところない/ない	64

[自由記述]

・自分が何になりたいのか分からない。

- ・自分が何に向いているか分からない。
- ・自分が何に興味があるのか分からず、夢や目標が決められない。
- ・自分に合う職業が分からない。決め方が分からない。
- ・本当に就職できるのか分からない。就きたい職ははっきりしない。
- ・詳しい職業名がよく分からない。
- ・自分の夢に強い意志をもてない。
- ・やりたいことが決まらない。
- ・決まっていないこと。
- ・やりたい仕事がない。
- ・テストで点が取れない。
- ・やりたいことが分からない。テストの成績が安定しない。
- ・学力がたりるのか。
- ・勉強が辛い。
- ・大学に入る為に勉強していて、入った後のことを考えていない。
- ・成績が上がらない。どの学部でどの大学に行きたいのか分からない。年金がいくらもらえるか分からない。
- ・大学の行きたい学部は決まっていますが、具体的にどんな職に就きたいかが分からない。
- ・勉強や大学に進んだ後のお金について。
- ・今の努力のままでは夢を叶えられないのではないかという不安。
- ・生活費問題。
- ・普通の会社員にはなりたくない。
- ・労働時間長そう。
- ・ブラックな企業に就職してしまわないか心配。
- ・日本の景気。

5. まとめにかえて

T県T市の小・中・高校生という、かなり限定された事例ではあるが、以上のようにみてきて、次のことは指摘しておきたい。

(1) 小学生のなかには保護者の様子を目の当たりにして労働に対する不安を記す児童もあり、小学生でも労働および就職に対して不安や悩みをもつ児童は存在するということである。

(2) 中学生では、「仕事に就いても、その仕事で自分に出来るのか不安」のように、願望と自分自身の能力との関係に不安を感じている生徒が少なく

いように思われる。趣味と職業との狭間で悩む生徒もいた。

(3) 高校生では、就職先・勤務先が具体的になっているが、他方で「自分が何になりたいか分からない」「自分に合う職業が分からない。決め方が分からない」など、改めて自己と向き合い、自己の適性を問うている。「テストで点が取れない」「学力がたりるのか」等の自己の能力や学習方法に悩みを感じている生徒も少なくない。なお、こうした結果が普通教育を主とする学科、いわゆる普通科の生徒であるからか否かは検討の余地もある。

各学校段階で「キャリア教育」を行うことが求められているが、これまで確認してきたような児童生徒の願望、不安や悩みに考慮し、不安や悩みを解消し、児童生徒を励ます方向でカリキュラム、学習指導が計画される必要がある。

付記:本稿は、御子柴暁さんの卒業論文「子ども・青年のキャリア形成のためのカリキュラムの再検討」(宇都宮大学教育学部、令和2年度)要旨に丸山が加筆・修正を施したものである。今後の教育実践のあり方を考える上で基礎的知見を提供する有意義な内容であると判断し、御子柴さんの承諾を得て、加筆・修正し、実践紀要に寄稿した。文責は丸山にある。

参考文献

¹ 佐々木英一・ほか編『ノン・キャリア教育としての職業指導』学文社、2009年、11ページ。

² このほかにも児美川孝一郎らにより批判的検討が行われている。特に児美川は、「非正規雇用」を見すえた「キャリア教育」を提案しており、参考にする必要があると思われる。児美川は『キャリア教育のウソ』(ちくまプリマー新書、2013年)において、次の5つの内容を提案している。「①「非正規」での働き方の多様な形態、それぞれのメリット・デメリット等についての学習」「②次のステップ(例えば、正社員への転換)への見通しの立て方の学習」「③公的な職業訓練や求職者支援などについての情報提供」「④労働法についての学習、相談・支援機関についての情報提供」「⑤同じプロセスを歩むことになる者どうしの仲間づくり」(155ページ)。本田由紀は、高校生を対象にして労働法教育の効果を検証しており、その結果も注目すべきである(本田「い

ま求められる労働法教育 —調査から見える効果について—」『POSSE』Vol.23、2014年、120-131ページ)。

³ 日本労働研究機構編集・発行『資料シリーズ 138 小学生の職業意識とキャリアガイダンス』、2003年、労働政策研究・研修機構研究調整部研究調整課編『中学生、高校生の職業レディネスの発達 —職業レディネス・テスト標準化調査の分析をとして』労働政策研究・研修機構、2007年。

⁴ 子ども・青年の悩みや不安を検討しているものとして、本多陽子「高校生における進路決定にまつわる悩みと信念との関連」『日本教育心理学会総会発表論文集』46(0)、2004年、646ページ、今田里佳・ほか「中学生・高校生のもつ悩みに関する学校心理学的研究(1)」『日本教育心理学会総会発表論文集』41(0)、1999年、564ページ、などがある。国民教育研究所調査委員会「〔中・高校生の学習と生活、進路選択に関する意識調査〕の分析」(『季刊国民教育』第64号、1985年、2-103ページ)は詳細な検討であるが、1980年代の調査であり、データとして古い。都築学編『働くことの心理学 —若者の自分さがしとからだち—』(ミネルヴァ書房、2008年)等も参考になる。

令和3年4月1日 受理

Survey on labor and occupational choice awareness of
elementary school students, junior high school students,
and high school students

Satoshi MIKOSHIBA, Tsuyoshi MARUYAMA